

KING OF SPORT RUGBY

特別定価 850yen

# ラグビーワールド 7

1995

平成7年7月1日(毎月1回1日発行)第12巻7号通巻130号 昭和60年2月2日第三種郵便物認可

ビデオ分析 日本代表 vs ルーマニア

## 日本代表はトンガ戦から何が変わったか？

W杯直前  
インタビュー

GO AHEAD JAPAN

## 平尾誠二

### 日本代表座談会

(PR太田治、WTB吉田義人、FL井沢航)  
2 戦勝って、決勝トーナメントに行く

社会人・大学・クラブ・高校  
350チーム以上のチーム情報掲載！

THE NICE GUYS  
今泉 清

神戸製鋼&ヤマハ発動機合同合宿

### 早稲田大 幹部座談会

ワールドカップ 8 強入りに向け、急加速

# 小藪ジャパン、 ルーマニアを撃破！！



吉田義人  
(日本代表WTB・伊勢丹)

# CHANGE

●本日は、今年の早稲田大をまとめる委員の方7人に集まっていただきまして。95年度型早稲田ラグビーについてお話を伺っていききたいと思います。まず、新監督となられた木本監督についての印象をお聞かせ下さい。

**小泉** 僕自身は、よく監督と話をする機会があります。練習メニューについても、僕と監督とで決めていきますから。やっぱり、厳しい部分を持った人だな、という感じがします。

**中島** 僕が一番感じているのは、思い切ったことをやる人だな、ということですね。

●木本監督になってから、かなり思い切った改革があったわけですか。

**中島** そうですね。早稲田の場合、練習の部分でもそれ以外の部分でも、伝統が大きなウエイトを占めることが多いです。

例えば、「根性論」もその一つだと思います。いい部分もあるけれども、やはり弊害もありました。今の時代にそぐわなくなった部分については、どんどん変えていこうという考え方なんです。監督は、「先例再考」という言

葉を使って表現したんですが、これは今年の早稲田の一つの特徴になりつつあると思います。

●他の方の木本監督の印象はどうですか。

**西澤** 僕は、選手たちの気持ちをつかむのがうまい人だな、と思いますね。

**鈴木** 僕は、厳しい人だな、という印象が強いですが、木本監督がグラウンドにいると、いつも見られているという気持ちになって、緊張しますよ。

**堀川** 僕も鈴木と同じですね。特に僕はポジションがスタンドなので、1年生の時から直接指導してもらっていましたが、やはり厳しいというイメージが強いんです。

**鈴木** コーチが何人グラウンドに来ていただいても、それより木本監督が一人グラウンドにいる方が、存在感はあると感じます。なんか緊張するんですよ。

●入江君はどうですか。

**入江** 頭のいい人だと思いますね。監督の話というのは、すごく理解しやすいんですよ。何についても、納得するように話してくれるんです。だから指

示されたことでも、納得して従えるんですよ。

●中島君から話のあった「先例再考」について、もう少し聞きたいと思いましたが、具体的には、どんな部分が変わりましたか。

**小泉** 一つは、ウエイトトレーニングについてだと思います。これまでのウエイトトレーニングは、ある程度個人に任せていました。でも今年は、チーム全体としてウエイトトレーニングを行うようにしたんです。僕自身、ウエイトトレーニングの必要性を感じていましたし、監督もウエイトトレーニングに関しては、全体で半強制的にやる方がいいという意見でしたから。

●どれくらいの割合で、ウエイトトレーニングを行っているんですか。

**中島** 4月の半ばまでは、週3日くらいはウエイトトレーニングをやっていました。その後も、週2日はやっています。

●何曜日という形で、ウエイトトレーニングの日を決めているんですか。

**小泉** そうですね。今は金曜日と、試合のあとにやっています。日曜日に試

合をすることが多いですから、金、日という形で、ウエイトトレーニングをしています。

●例年よりも多くウエイトトレーニングを行っているということですが、効果はどうですか。

**中竹** これまでも、ウエイトトレーニングを自分でやっていた人はいましたが、全体でやるようになって、チームとしての底上げができてきたと思います。

日本ラグビーの人気を二分する早明戦では、平成2年度の清宮キャプテンの時以来勝ち星なし。堀越キャプテンの時の終了直前の同点引き分けを除けば、ここ数年、明大には溝を開けられている。しかし、今年の早大はちょっと違っている。グラウンドでは、下級生から上級生まで、全員が生き生きとした動きを見せ、監督も、木本健治氏が復帰した。今回は、チームの機関車役ともいえる小泉和也主将を始めとする委員7人に集まっていた。ニュー早稲田を背負って立つ選手たちに、今年の早稲田大が目指すものは何なのか、チームの現状はどうか等を伺った。



W A S E D A U N I V E R S I T Y

早稲田大学座談会

## 変わる早大!

「先例再考」を合い言葉に、ニュー早稲田目指す!!

出席者

- 小泉和也主将 (4年・FL)
- 中島誠一郎主務 (4年・WTB)
- 入江剛史 (4年・PR)
- 西澤剛 (4年・LO)
- 堀川隆延 (4年・SO)
- 鈴木貴之 (4年・WTB)
- 中竹竜二 (3年・FL)



▲小泉和也 主将・FL

# CHANGE

変わる早稲!

**入江** 自己申告ですが、記録も取っているので、効果は確実に出てきています。  
**小泉** 前よりもウェイトトレーニングに力を入れているということですね。  
**中島** チーム全体のレベルアップを図っているということだと思います。でもこれは他のチームならば当然のことです。これまで早稲田がやらなかったということだと思います。

**ウエイトトレーニングの他にも、「先例再考」はありますか。**  
**西澤** 今年は、役職を持った選手が多くなりましたね。  
**●皆さんは委員ということですが、それ以外にも、いろいろな役職があるということですか。**  
**小泉** 僕の考えで、バイスキャプテンは置いていないのですが、委員の他に、ポジションリーダーを置いています。  
**●ポジションリーダーの役目は、どのようなものですか。**  
**小泉** グラウンドでの練習に関しては、各ポジションリーダーの指示に全員が従うこととなります。グラウンドで僕が指示を出すのは、練習のスタートと終了についてだけです。その他の練習の指示は、ポジションリーダーが出すこととなります。グラウンドでは、僕もポジションリーダーの指示に従うということですね。

「練習をしよう」ということは、グラウンドに出る前のミーティングで打ち合わせをしていますけど。  
**中島** その他にも役職はあるんですよ。例えば食事長とか、掃除長とか。  
**中竹** 入江さんは、食事長でもあるわけですね。  
**入江** 食事長といっても、いつも最後まで食事をしているからっていうわけですね。  
**●食べるのが遅いんですか。**  
**入江** 食べるのが遅いというわけではなく、体が遅いんです。食前には、すぐに体重が落ちてしまうので、できるだけ多く食べるようにしているんです。だから食事時間がかかるわけですね。食事長だからって、特に何をやっていいかわからないです。  
**●委員制、ポジションリーダー制についての効果は、どの辺りに出ていると思いますか。キャプテン、いかがですか。**  
**小泉** その質問は、僕もみんなの意見を聞いてみたいので、僕は最後に言いたいと思います。

●では、3年生の中竹君はいかがですか。  
**中竹** 下の意見が上に伝わっていくということ、委員制というのは、チームにとってプラスだと思います。自分もこれまで、意見を述べる立場ではなく、上からの意見に従っていくという立場でした。でも委員になったことで、意見や考えを言わなければいけない立場になったと思っています。特に自分の役目は、下の意見、考えを、上に伝えるということだと思っています。下の意見を聞いてもらえる場ができたというところは、いいことだと思います。間違っていれば、どこが違うのかということもちゃんと説明してもらえますし、常にチーム全体が納得して動いていけるので、いいと思います。  
**●西澤君はどうですか。**  
**西澤** 自分の場合、委員になるなんて全く考えていなかったです。だから、いざ委員になって、始めは考えすぎたところもありました。でも今はチーム全体を動かしていくという部分で、いい形になっていると思います。  
**鈴木** 自分はこれまで、言われた練習

を何の疑いもなく消化してきました。でも委員になって、この練習で本当にいいのか、もしかしたらもっといい練習があるのではないかと、思うようになったんです。  
**委員会という体制が、良いとか悪いとかよりも、結果が出るかどうか問題だと思います。この委員会を、勝つための有効な組織になるようにしていければいいと思っています。**  
**堀川** 自分は委員という立場になりましたが、まず自分自身がしっかりやらなければいけないと思いました。自分が自信を持ったプレーができなければ、部全体のことについて何を言っても、他の部員がついてこないと思います。今はまだ、鈴木と相談しながらやっています。  
**小泉** みんなの話を聞いていて、今の形にしてよかったと思っています。というのは、委員になった選手、ポジションリーダーになった選手それぞれが、いろんなことを考えていると思うんです。多くの選手が考えて、そしてそれをまとめていくということ、よりよい練習ができると思います。また

それがチーム全体にも、良い影響を及ぼすことになると思います。  
**もちろん、今年の早稲田ラグビー部の成績に関しても、それ以外の部分でも、最終的な責任は自分にあります。でも、一人でも何かはできないと思いません。ここにいる委員、そして実際の練習の進め方に関しては、各ポジションリーダーと話して部を動かしていくという方法を採ったわけですね。**  
**●委員とポジションリーダーとは、どういう分担になっているのですか。**  
**中島** グラウンドでは、ポジションリーダーが中心になって、練習を進めていきます。委員は、練習も含めた生活環境全体について決めていくんです。今は、いい形で全体が機能していると思います。  
**目標はディフェンスの強いチーム**  
**●それでは、今年の戦力、チーム力についての話を伺いたいと思います。現在は、どのように練習を進めていますか。**



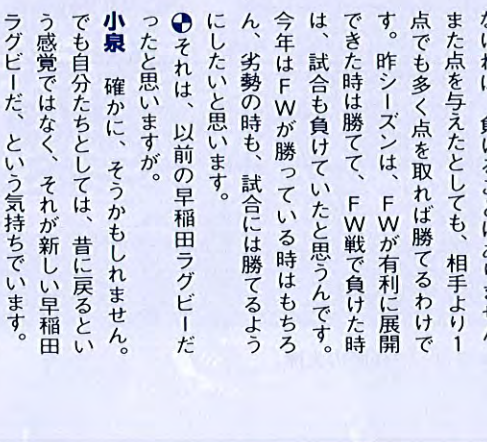
▲堀川隆延 委員・SO



▲中島誠一郎 主務・WTB



▲入江剛史 委員・PR



▲中竹竜二 委員・FL

**小泉** 先ほどもちょっと話しましたが、4月半ばまでは、とにかくウェイトトレーニングに力を入れました。6月に入るとオフになりますが、それまでは個人の能力を高めるための練習をしていこうと思っています。  
**●早稲田は、昨年は早い時期からシニア、ジュニアに分けて練習をしていましたが、今年も同様の練習を行っているのですか。**  
**中島** 今年は特にシニア、ジュニアに分けた練習はしていません。一昨年からそうだったと思うんですが、全体で同じ練習をしています。  
**西澤** 全体で同じ練習をすることによって、ちょっと練習時間が長くなるという欠点はありますが、プラス面の方が大きいと思います。  
**鈴木** 一緒に練習することで、下の選手はレベルが上の選手のプレーを見ることができ、直接教えてもらうこともできます。逆に教える選手にとっても、教えることで自分も新しいものがわかってくる、ということもあると思います。

**入江** 今の時期、メンバーが固定されていないということ、チーム内でポジション争いが激しくなっているということもありますね。  
**中竹** オープン戦での大抜擢も行われているので、メンバー全員がやる気を出していると思います。  
**堀川** これまでだと、部内マッチで下のチームが勝ったとしても、それほどメンバーの入れ替えはなかったんです。でも今は、悪ければどんどん入れ替えが行われるので、みんな気が抜けないという感じで練習しています。  
**●現在、どのようなポイントに課題を置いて練習しているのですか。**  
**堀川** 現在のバックスは、ディフェンスとダウンボールをしっかりするということを目標に練習しています。ディフェンスといっても、まだチームディフェンスということではなく、タックルの強さを中心とした、個人のディフェンス力の強化が中心になっています。  
**鈴木** タックルの強さに関係してくると思うんですが、あとはウェイトトレーニングで個人の強さを高めることだ

と思います。  
**●フォワードはいかがですか。**  
**入江** 昨年のスクラムは、「やられた」という感じがありました。自分たちでは案外自信を持っていたんですが、明治戦と大東大戦では、押されてしまったと思うような形が作れませんでした。それまではうまくいっていたんですが、ここ一番で力が出せなかったというところは、失敗だったと思っています。今年は昨年よりはいいスクラムが組めると思っています。練習全体では、今の時点では例年に比べ、あまり走っていないですね。その分、ウェイトトレーニングの比重を高めています。やはりフォワードも今は、個人の能力アップを目指した練習を行っています。  
**●第2列はどうですか。**  
**西澤** ロック陣も今は、個人のレベルアップ中心の練習メニューを組んでいます。昨年までは、武内さん、遠藤さんという力のあるスター選手がいまして、今年はそういう選手がいまいるから、ポジション争いは激しくなる

と思います。  
**●第3列はいかがですか。**  
**中竹** 今年の早稲田は、ラインアウトでのスロアーをフランカーの選手がやるということになっているので、そのタイミングなどのスキルアップと、一人一人が強いタックルをすることが課題です。  
**●スロアーをフランカーの選手が行うということにしたのは、なぜですか。**  
**中竹** テンポアップというのが、大きな理由です。右サイドのラインアウトは右フランカーが、左サイドのラインアウトでは、左フランカーがスロアーをやることになっています。  
**●春のシーズンは、個人のレベルアップを第一目標として練習しているようですが、最後に、今年どんなチームを目標としているのかを伺いたいと思います。**  
**小泉** 今年の目標は、とにかくディフェンスの強いチームを作ることです。昨年は、勝つ時は大勝するが、負ける時は、ディフェンス網がスタスタになってしまったという感じがします。極論を言えば、1点も相手に与え

なければ、負けることはありません。また点を与えたとしても、相手より1点でも多く点を取れば勝てるわけです。昨シーズンは、FWが有利に展開できた時は勝って、FW戦で負けた時は、試合も負けていたと思うんです。今年はFWが勝っている時はもちろん、劣勢の時も、試合には勝てるようにしたいと思っています。  
**●それは、以前の早稲田ラグビーだったと思いますが。**  
**小泉** 確かに、そうかもしれません。でも自分たちとしては、昔に戻るといった感覚ではなく、それが新しい早稲田ラグビーだ、という気持ちです。  
**●本監督にも自分たちの考えを認めてもらって、練習方法、メニュー作りも相談しながら思うようにさせてもらっています。70年以上も歴史のある早稲田ラグビーの良い部分は残しながら、自分たちが新しい伝統を作っていくんだという気持ちで、思い切ったことをやっていこうと思っています。もう今年やってみてダメだったら、また来年の幹部が改革していけばいいと思っています。今までは違う練習を取り入れていた部分もあります。今までは同じことをやっていたのでは、進歩はありません。その部分で、コーチたちともぶつかるかもしれません。でもよく話し合って、自分たちがいいと思ったことは、やっていこうと思っています。**  
**●とにかく、選手全員が勝ちたいと思っていますので、そうなれるように頑張りたいです。**  
**●最後に力強くまとめていただきます。本日は、練習後の貴重な時間に集まっていたいただきまして、ありがとうございました。頑張ってください。**